

地域医療連携広報誌

つながる医療

特集インタビュー

沼波 宏樹 医師

ぬまなみ ひろき

総合大雄会病院
呼吸器外科 副院長

【主な資格】

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本呼吸器外科学会専門医・評議員
- ・Da Vinci Console Surgeon
- ・日本呼吸器外科学会
ロボット支援手術プロクター
- ・臨床研修指導医
- ・医学博士



積極的に低侵襲手術を取り入れ、患者さんの負担軽減を目指しております。

呼吸器外科 副院長

沼波 宏樹

呼吸器外科のアピールポイントを教えてください。

肺がんや縦隔腫瘍を代表とした呼吸器・胸部全般の外科治療を行っています。治療には積極的に**胸腔鏡手術**を取り入れています。胸腔鏡を使って肺がんの診断と治療を**一度の手術**で行っています。具体的には肺がんが疑われる腫瘍を切除し、手術中に顕微鏡で観察し、肺がんと診断されれば、そのまま治療の手術に切り替えます。これにより、肺がんの早期発見・早期治療、また患者さまの負担軽減とより早い回復、再発防止を目指しております。もちろん呼吸不全や糖尿病・脳梗塞などの合併症、透析を必要とする方に対しても、他科と連携して手術を行っています。

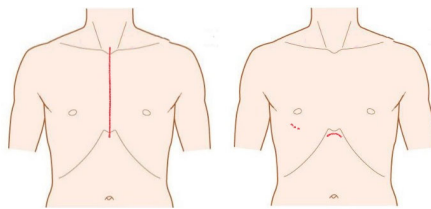
肺がんについて教えてください。

当科が対象とする病気のうち、最も多いのが「肺がん」です。肺がんはがんによる**死亡者数第1位**であるとともに、5年生存率も他のがんに比べ低い状況です。

このことをうけ、肺がんの早期発見と早期治療のため、**PET**を診断に加えています。また、他の検査で診断が確定できない腫瘍に対して、胸腔鏡手術で**診断と治療を一度**に行っています。

縦隔腫瘍について教えてください。

右肺と左肺に挟まれた部分を縦隔といい、ここにできる腫瘍を総称して**縦隔腫瘍**と呼びます。縦隔腫瘍には、胸腺腫・奇形腫が多く、これを切除するために胸腔鏡手術を行っています。従来、このような腫瘍を治療する際、それがどれだけ小さな腫瘍であっても胸の中央に大きな傷を付け胸骨を割る必要がありました。しかし当科では胸腔鏡を積極的に使うことで胸骨を切断することなく、**みぞおちの傷**だけで今までと同等の治療ができるようになりました。



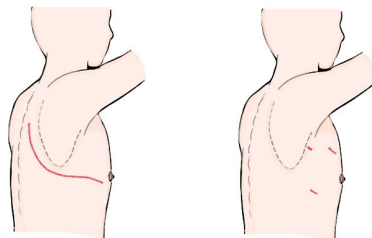
正中切開：傷が大きいだけでなく胸骨も切断する

剣状突起下アプローチ：胸骨は切断しない

胸腔鏡手術について教えてください。

胸腔鏡手術とは、肋骨の間に**2 cmほどの穴を3～4カ所**あけ、そこから“胸腔鏡”というカメラと“鉗子”という手術器具を挿入し、テレビモニターに映しだされた映像だけをみて行う手術のことです。

開胸手術の場合、胸の中に手を入れて手術を行うので、20cm～30cmの大きな傷と肋骨の切断を必要としていました。したがって、胸腔鏡手術は従来の手術に比べ**傷が小さい**ので、手術を受けられた方の体への負担が少なく、術後の回復が早いのが特徴です。その一方で、テレビモニターを見て細長い鉗子だけで手術をするため、手術を行う医師には**高度な技術**が必要とされます。



開胸手術（後側方切開）：傷が大きいだけでなく肋骨を切断する

胸腔鏡下手術：3～4カ所の穴をあけカメラと鉗子で手術

ダヴィンチ（ロボット支援手術）について教えてください。

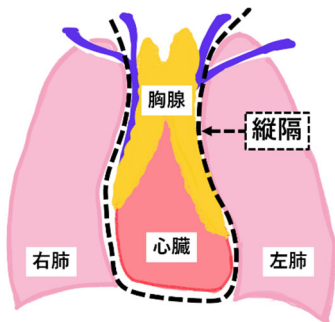
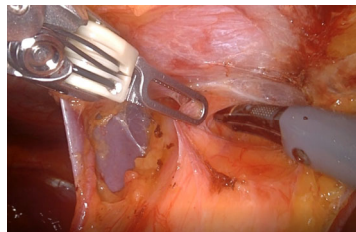
当院には、手術支援ロボットである「**ダヴィンチ Xi** サージカルシステム（Intuitive Surgical, Sunnyvale, CA）」があります。これは従来のダヴィンチシステム＝「ダヴィンチ Si」をあらゆる面で凌駕しており、手術の安全性を担保する上で、患者さまにとっても大きなメリットになります。

ダヴィンチは、多くの関節を持つ“ロボットアーム”と鮮明な3次元画像を有した、**最先端の手術支援システム**です。現在の胸腔鏡手術では棒の先に小さなピンセットやハサミのついた器具を用いて手術を行っています。例えるなら“さい管”を用いてその先にある腫瘍や肺を切除しています。ダヴィンチでは**関節を持つロボットアーム**を用いて手術を行うため、外科医の“手”を胸の中に入れて手術を行っている状態に近いのです。

呼吸器外科ではダヴィンチを用いて、前縦隔腫瘍・胸腺摘出術および肺癌に対する肺葉切除術と肺区域切除術を行っています。特に前縦隔腫瘍の手術はロボットの利点を生かしたもののといえます。



ロボットの鉗子：関節がついており複雑なことが容易にできる



前縦隔とは、胸骨という“硬い天井”と、左右は肺という“もろい壁”に挟まれ、“床”は心臓でできているという、非常に狭くデリケートな場所です。この狭い場所にできた腫瘍を切除するうえで、“手首”の役割をになう関節を持つ手術支援ロボット“ダヴィンチ”は、**正確で安全な手術を可能**にします。特に、大きな縦隔腫瘍の切除に関して、ロボットは安全性の面で有利であるという報告があります。

ワンポイントアドバイス

肺の病気を予防するには、「**禁煙**」が第一です。

長期の喫煙により、COPD（慢性閉塞性肺疾患）という病気を発症するリスクが高くなります。また、COPDを発症した方の肺がんにかかる確率は、COPDを発症していない方の**5倍**といわれています。

喫煙されている方には非常に難しいことだとは思いますが、**禁煙**を強くおすすめします。



先生の事をもっと知りたい！

● 医師を志した理由を教えてください。

幼少のころ、大きなタンカーにお菓子をたくさん積んで、食糧の少ないところに行き、お菓子を配りたいという気持ちを持っていました。そして高校時代、医師になるか化学の教師になるか弁護士になるか迷っていた時、幼少期に持っていた「自分で直接、人の助けになりたい」という強い気持ちを思い出し、医師を目指すことにしました。

● なぜこの診療科を専攻したのか教えてください。

目に見えるものを手で触って直接治療する外科を選択しました。その中でも塊の臓器が好きで肺を扱う呼吸器外科を選択しました。

また、CTが簡単に取れるようになり、肺がんを早期に発見、手術できるようになったことも呼吸器外科を専攻した理由です。

● 診察の際、大切にしていることを教えてください。

患者さまの信頼を得ることです。特に外来では手術を受けることが前提で受診される患者さまが多く、診察の際に信頼関係を築くことができなければ診療がスムーズにいきません。

初対面の医者に手術を任せることに不安があるのは当然のことです。できるだけ多くコミュニケーションをとることで、その不安を少しでも取り除き、効果的な治療につなげることができると考えています。

● 休みの日の過ごし方を教えてください。

愛車ででのドライブが趣味です。先日は妻と2人で岐阜城を見にいきました。

また、娘は発酵に興味があり「杜氏になろうか」などと言っており、私なので、家族と“全国日本酒酒蔵巡り”もしてみたいも日本酒が大好きですね。



詳しくは、地域医療連携室までお問い合わせください

